

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2793700069		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘6-6-35		
自己評価作成日	平成31年11月25日	評価結果市町村受理日	平成32年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のスローガンである『四季や曜日感を感じ、生きるために生きるホームを作る。』をモットーに季節を衣食住において感じて頂けるように取り組んでおります。またご利用者様からの提案で食べたい物や行きたい場所があればできる限りお答えし取り入れさせていただきます。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業母体のスターツケアサービス(株)は、関東・中部・関西地方に高齢者介護サービス福祉事業を展開している。当事業所は、平成30年に2ユニットで開設された。近隣には四季の移ろいを観賞できる広い公園、買い物に便利なスーパー、地域住民の集会の場である公民館や、閑静な民家・旧家がある地域に立地している。近距離の大阪万博公園へ弁当持参で花見を企画・実施し、近隣農園に芋ほりに行く等で自然に親しみ、運動・リハビリを兼ねた散歩に最適で絶好の環境にある。また利用者と職員の共同作業による、日本の四季を表現した飾り物、イベント時のスナップ写真が玄関と廊下に掲示され、事業所の安寧な雰囲気が伝わる。利用者の日常の衣食住に関する希望に応える努力や誠意から評判が良く、口コミで入居希望者待ちが生じている。管理者をはじめ全職員は、使命感と働き甲斐を持って、介護ケアの質の向上を目指して真摯に取り組んでいる事業所である。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念やホームのスローガンを周知し同じ方向に向かっていく様努力しております。	「いつも心に笑顔を」がパンフレットの表紙に掲載されている。玄関・事務室には企業理念・運営理念が掲示され、訪問者の視野に入っている。毎日の朝礼や職員の全体会議の折に振り返ることにより、職員は理念や独自のスローガン「日進月歩」を共有するとともに、介護の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日に散歩や買い物をなどの際地域の方々と挨拶などを交わしながら交流をはかっております。	地域の自治会に加入していて、自治会長と管理者は信頼関係にあり、相談しながら地域の一員となるべく努力している。地域の夏祭り・盆踊りに参加し、散歩や買い物時にはお互いに挨拶を交わしている。施設訪問や面会者を歓迎する等、開けた事業所として日々交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させて頂いたり、お招きして頂いたりしております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者やご家族の方等から頂いたご意見を活かしサービスの向上に努めております。	会議は偶数月に年6回開催している。会議のレジメは、イベント時の写真を掲載した実践報告や連絡事項等で、出席者の理解が深まる工夫を心がけている。参加者は市職員・利用者・家族・管理者である。一方、地域の自治会関係者・知見者に働きかけをしている。出された意見は受け止め、介護サービスの向上に繋げている。会議録は関係者に公表している。	会議の構成メンバーとして、地域の代表者(自治会長・民生委員・婦人会代表)・認知症知見者へ働きかけをしている。出席者にとって曜日や時間帯も関係するので調整中だが、努力して参加を得て、有効な意見交換が活発となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との常に連携が取れる様に対応させて頂いております。	市の高齢介護課の係長・課長とは連絡を密に取っている。平成30年の地震・台風の災害時には、行政がすぐに駆け付け、ダメージのチェックも一緒にしてくれた。市主催の研修会に管理者・職員は積極的に参加している。行政とは双方向的に報告・連絡・相談を密に取り、協力関係を常に築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催し、全職員に結果の周知徹底を図っている。マニュアルを整備し、身体拘束・虐待に関する研修会も実施して、全職員は身体拘束の弊害について理解している。職員の言動で気がかりな場面では、管理者やリーダーが指導している。従来、玄関は開錠していたが、某派出所での傷害事件後、安全のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに契約までの流れに沿って細かく説明させていただきご納得されたうえで契約をさせていただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関先に設置したり介護相談員の方をお迎えし、ご意見を頂いた際には早急に検討し反映させていただける体制を設けている。	現在の利用者は介護度が低く、希望・意見を聞くことができる。家族の事業所訪問時の機会を利用し、情報交換して要望・意見を受け止め、事業所の運営に繋げている。本年のクリスマス会には、関係者の協力支援で、コーラスグループがボランティアで参加をすることになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を実施。その他常に悩みや困りごとを聞きやすい雰囲気づくりをしております。	全体会議・フロアー会議・委員会の場を通して、職員の意見・要望・希望を聞いている。管理者と職員は信頼関係にあってお互いに話しやすく、会議以外でも情報交換して事業所運営に反映している。提案事項に関しても、説明・納得することで良好な人間関係にも繋がっている。イベントの企画・実施、事業所内の装飾などに、力の結集が表われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給及び賞与に関しては考課表をもちいてフィードバックするようにしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として毎月研修を実施、個々には都度、個人の力量に合わせたケアの助言を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政で開催される研修に参加させていただき交流する機会を設けていただいております。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの時間を多くとり、アセスメントや本人の気持ちを理解すべく日々関係づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化や様子は随時電話にて報告させていただき、その他の事項は訪問時に報告させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングの時間を設けさせていただき細かな変化にも早急に対応させていただけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様から教わることも多々ありますので常に接遇等も大事にしながらご利用者様と同じ目線で対応させていただいてます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族様にホームでの生活や体調などをご報告させていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもとより親戚の方やご友人など特段制限を求めず時間も縛りなく気軽に訪問していただける環境づくりをさせていただいております。	事業所への訪問者は、家族・親戚・友人と多い。気軽に訪問できる雰囲気づくりもあり、利用者と面会者は楽しい時間を共有している。家族同伴で買い物や外食に出かけたり、馴染みの理・美容室や墓参りに出かける利用者もいる。利用者の馴染みの人や場との関係継続ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に極カリビングで過ごしていただきスタッフが間に入り利用者様が孤立しないような環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係終了後もお互いに電話連絡をし地域の方として協力をしていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい場所や食べたい物の希望をお聞きし実現できることは可能な限り実行させていただいております。	四季や曜日を感じるような働きかけもあり、次月のイベントの準備をしながら、利用者の意見や希望も自然な形で出てくる。利用者と職員が一体となってイベントに取り組み楽しんでいる。寿司を食べに行きたい、11月にはハロインをやりたい、等の意見・要望が出され、実現に向けて利用者・職員が生き生きと取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの環境を重視し外出の機会を設けたり、好きなものをお聞きし献立に盛り込んでおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や、就寝時間などは特に制限は特に制限を設けず自由な時間に寝起きしていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日々の面会時等に頂いたご意見を反映させていただいています。	月1回のモニタリング、日々の介護記録、ふれあいノートなどを基に、ケアマネジャー・家族・医師・管理者が参集してサービス担当者会議を開催し、介護計画書を作成している。計画は短期は3ヶ月、長期は6ヶ月から1年で見直し、利用者の急変時はすぐ現況に即した計画書を作成し、職員は共有して実践に繋げている。計画は家族に説明して納得の上、署名・捺印を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をどなた見てもわかりやすく見れるように努力させていただいています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の趣向に合わせて買い物の援助をさせて頂いたり外食や遠足に出かけたりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーで買い物や飲食を実施。散歩は近場の公園を利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は毎月2回往診。急な体調変化はホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。	利用者は、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、月2回の往診を受け、歯科医も同様に毎週往診を受けている。整形外科・眼科は必要に応じて専門の医療機関を受診し、原則として家族が同行している。契約看護師が週一回は訪問して健康管理に携わり、医師との連携も良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問にて対応。体調変化についてはホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室の方とコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の指針を示しており、重度化した際は早めの段階で本人やご家族様と話し合い十分な説明をし医療機関関係者とチームで支援できるように取り組みます。	入居時に、重度化した場合の対応についての指針を利用者・家族に示し、事業所で可能な対応を説明して同意書を交わしている。医師が重度化したと判断した時、改めて医師から家族に説明して同意書を交わし、希望により事業所で看取りを行っている。今年になって1名看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生マニュアルに従い訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の研修を実施・予定しています。	年2回消防署立ち合いで、消火・避難訓練を行っている。夜間の職員が少ない時を想定した訓練で、2階の利用者の1部は避難に時間がかかるので、近隣に居住する職員の緊急時出動態勢や、近所の住民の応援の依頼を考慮中である。地震時には机の下に入ることを利用者に指導している。備蓄は1週間分確保して、災害対策委員会が管理している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーを尊重する配慮や言葉かけ、対応を実施させていただいています。	職員の利用者に接する態度や声かけは、親しみを込めて行っている。特に言葉による虐待や拘束を戒めて、和やかな雰囲気である。トイレ誘導時や、入浴時の羞恥心にも配慮している。個人情報書類等は、事務所の鍵付きロッカーに適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし自己決定できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、食事・入浴・散歩等の時間をご利用者様にあわせていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や、寝ぐせ直し等個人に合わせて身だしなみを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食事のメニューを取り入れ、買い物・準備・片付けなどを一緒にさせていただいています。	職員が食材を買いに行き、手作りで調理して提供している。利用者もできる人は職員と一緒に調理・盛り付け・片付けを行い、男性利用者も、テーブル拭きや下膳等をしている。月1～2回は外食、又は利用者の好みのお好み焼き・餃子・春巻き等を、食材の買い出しから調理まで皆で一緒にして楽しんでいる。職員も同じものを食べている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に食事を提供しています。水分も1500ccを目安にしコーヒー・紅茶・ココア・緑茶など豊富に取り揃え選んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問して個別にケアを指導しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレを利用していただいています。	日中は全員トイレでの排泄を支援し、おむつは使用していない。個人の排泄リズムや表情・仕草等を見て、トイレに誘導している。夜間は3名のみおむつを使用しているが、可能な限りトイレでの排泄を支援している。トイレ誘導・おむつ交換には、就眠状態も見て配慮している。ポータブルトイレを置いている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、摂津市の体操を行い水分をしっかり引用していただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いをせずにお声掛けをし入浴していただき気分転換をしていただいています。	週2回、14時から16時頃の入浴を原則としているが、時間・曜日等は希望に沿って柔軟に対応している。近所の方が入浴剤を提供してくれることもあり、利用者を喜ばせている。浴槽は、3方向介助が可能なタイプで、便利な介助椅子も用意され、重症の利用者でも負担なく入浴できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し眠たくなられた時に寝ていただける様に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にはスタッフたりでお名前を何月何日〇〇様〇錠〇包いきますとダブルチェックし、ご本人様と一緒にもう一度確認したのち服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回は必ず外気に触れるか洗濯もの干しや買い物・散歩・レクリエーションなどを実施していますが、ご本人様に合わせて無理強いをしない様に心がけております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるような外出も心がけています。(バラ園・紅葉狩りなど)	時候の良い時は、近くの公園で四季の移り変わりを楽しみ、買い物する職員と外出したり、花見・紅葉狩りで万博公園等へ行くこともある。年2～3回、介護職員が運転する車で何回かに分かれて、自前の弁当持参で出かけている。事業所前の植え込みのある駐車場のベンチや、裏の菜園で野菜の手入れをしながら外気浴を楽しんでいる。管理者・職員は、日常的な散歩をより増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のスーパーやコンビニなどでの買い物。個人のお小遣いをもって頂き買い物をしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や文通などは特に制限なく自由にしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるように配慮しています。ソファは皆さんご自由に使用していただいています。	玄関ホール・リビング・廊下の壁面に、行事の写真や季節飾りの手芸品を一面に飾り、季節を感じさせている。大きな日めくりカレンダーもある。温湿度・明るさ等も気持良く管理され、トイレ浴室等も清潔である。リビングのソファ、廊下のベンチ等が、くつろぎとちょっとした一休み等のために、効果的に配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子などを配置し思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様からヒアリングさせていただき、なじみの家具等の配置をしていただいています。	照明・エアコン・カーテン・クローク・ナースコールが設置され、利用者は使い慣れたベッドや家具・備品等を持ち込み、従来からの生活の継続感があり、住み心地が良いよう設えられている。テレビ・仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。ベッドを使わないで、床に敷物を敷いて日本間風に使用している人もおり、それぞれの生活を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレは自由に使用していただけるよう清潔保持に努めております。		